

家庭



子母里そーだん

こにし のぶはち

父母として其子の生長や立身をとぞまぬ者はあるまい、又其子の長命や繁昌をよろこばぬ者もあるまい、其しよーこにわ赤子が生れて七夜になるまで、いやそれどころか、うまれぬ前のその前にんしんと定まる時より、夫婦そーだんして男兒ならば何、女兒ならば何と申しあわせ、念の入りたる所でわ祖父や祖母に名をえらんでもらい、自分の師匠にもたのむなせするもあつて實に子の行末を思い目出度縁起のよい名をえらぶ

わ有りがたき親の心なれば、決してわるいとわ申さぬが、如何に名わうつくしくても其子の生長の後の行がわるければ、うつくしき名わ反つてあざけりの種となり善太郎の名にも似つかぬ悪太郎、清まるどころか汚がれまるだなきとよく世の人のいうわ、其人の行の其名にかなわぬをそしりてのことなり、さればどて好んで聞にくき名や見にくき名を付けるにもおよばぬに悪太郎だの捨吉だのと付けたるもあるが、これわ如何に父母なればどて七夜ばかりの赤子の行末を見ぬきて付けたるわけでわなくて、夢わさかさまともいうとわざにつられて善太郎たれどの願より出でたるか、又わ病氣にてどても全快の見こみがないと醫者にも見捨てられしをせめてものことにと捨てこそ浮かむ瀬もあれどまじないの心にて付けぬるもある一で、やはもその子の行末を案じわづらつて小しでもよかれといのる外わ

ないので決して其子の悪人たることを願つたり捨てるが本心の名でわれないが名のうつくしすぎるもよくないと同じく悪太郎の捨吉のというも其子生長の後多くの人と交る上に必ず幾分かの迷惑あると思われ、これも餘りはめられないされば子供に名を付けるに餘りこりかたまたま誰にもよみなやむことなくわかりやすいを第一とし次にわ自分でかくに手間のどれぬで書きやすいのが一ばんよろしいと思わる、人にわかりやすくて自分で書きやすいことばにわ目出度して縁起のよい名がないとわかざらぬ！

まかるに婦人にして嬌肅だの秋月だのいう方があるかとおもえは博士中に初子といふ方もあるハツコであるかハツ子であるか御當人に伺わなくてわよみかたがわからぬでわ不都合でわないか、これがために郵便局で爲替金を渡すことをこばんだ話もある、又いつぞや女

子高等師範學校卒業生姓名を印刷したものに卒業生の名に漢字でかいたもあり、萬葉假名もあれば平假名もあり片假名もあり實に見よくないので何故でときいてみると戸籍帳に載せてあるより外の書き方が出来ない故だときいてあきれて居る間もなく、わが友人が本郷から小石川へ移つて来て轉居届に自分の妻君の名をいちと書いて出したれば區役所へ呼び出され、戸籍帳にいぢどあるからかき直して届けると申し渡され半日の公務をつぶし、われも亦出産届に家内の名をうめと書いて出し區役所へ呼出され戸籍帳にひめとあるからうをむとなおせと申され半日つぶれとなりしわ口やしくもあり馬鹿馬鹿しくもあり、人人にはなすとわれもなりわれもなりという人の多さを見れば世に戸籍帳のためにつさらぬ手間費して居る者何程あるか分らぬわなげかわしい事だ。

既に戸籍帳にのせられてむ容易に書き直すことの出
 來ぬ規則であることを世の父母たちがよく承知である
 か如何 田中正造と申す代議士と田中正藏と申す神田
 の活版職と間違つてわならぬから藏と造と書き違せぬ
 ようにとするわまだ少しわさこえるが、ちをいちと書
 いてわるいのはつをどつと書んでわならぬの戸籍帳に
 片假名でかいてあるからにわ平假名で書いたものを取
 上げられぬということでも實に究屈でわないか、それ
 も御上の規則で仕方がないとあきらめるならばせめて
 わ此後此世に生れる多くの子供に此迷惑をかけぬよ
 に男兒には漢字を用ゆるにもせよ誰にも讀めて自分で
 わ書きやすというを第一とし女兒には先頭文部省で
 定めて出された平假名で書くときめたいものでわな
 かか？

むつかしい讀みにくい漢字で名を付けて其子の縁起

を祝ひ幸福を祈り賢人ぶらするのわ鬼の面をかぶつた
 り銀紙を張つた木刀で子供や女をおどす盜賊が金箔と
 からだ一面に塗りつけて自分を神さまぶろーとして體
 内から悪るい氣の逃げ出る孔をふさいで死んだ馬鹿坊
 主とおなじいよりの者だ！

印度土人の家庭生活 (承前)

Y. I.

若し信心深く、閑暇のある婦人ならば、庭園から數
 枝の花を手折つて、最寄の神社に詣で、少しばかりの
 菓子と賽錢とを、神様に獻げるのです。けれども、こ
 れよりも、猶普通に行はれて居ることは、各の住宅
 の庭内に、四角な臺を作つて其上に安置してある、羅
 勤どか申して神聖なる植木の周圍を、この信心な婦人
 達は低聲で、何事か唱へながら、グルグル廻つて満足